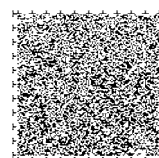


マイ・タイム ラインを つくろう。

目 次

気象状況を確認する	024
マイ・タイムラインをつくろう	026
①ハザードマップを確認する	028
②避難情報や防災気象情報を確認する	030
つくり方を確認する	032
1 避難先を記入する	
2 避難情報や気象情報から避難のタイミングを考える	
3 避難開始・避難完了のシールを貼る	
4 避難開始までの行動を考えてシールを貼る	
5 地域に対しての行動を考えてシールを貼る	
避難への備えや家族との連絡方法を考える	038
避難行動判定フローを確認する	040
マイ・タイムラインの使用時の注意点	044
マイ・タイムライン作成例	046



気象状況を確認する

台風が近づいているとき

- 台風が接近・上陸すると強風や大雨を伴い、高潮を引き起こすこともあります。
- 台風の経路は、予報と変わる可能性があるため、天気予報をこまめに確認しましょう。

まずは台風から
作ってみよう



大雨が長引くとき

- 梅雨前線、秋雨前線が同じ場所から動かないとき、または線状降水帯が発生したときは大きな災害に結びつくことがあります。
- 天気予報で「梅雨前線、秋雨前線、線状降水帯」という言葉を聞いたら、注意が必要です。



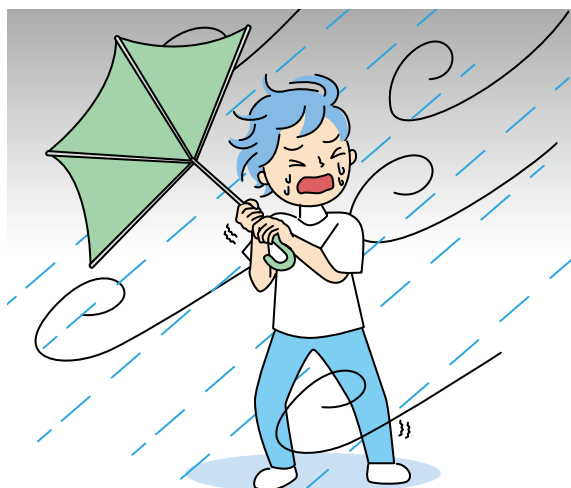
短時間の急激な豪雨が发生时

- 短時間の急激な豪雨(ゲリラ豪雨とも呼ばれています)は7月～9月頃に発生しやすく、1時間に50mm以上の非常に激しい雨が降ることがあります。
- 晴れていても、天気予報で、「大気の状態が不安定」や「雷注意報発表」などという言葉を知ったら、注意が必要です。



避難のポイントになること

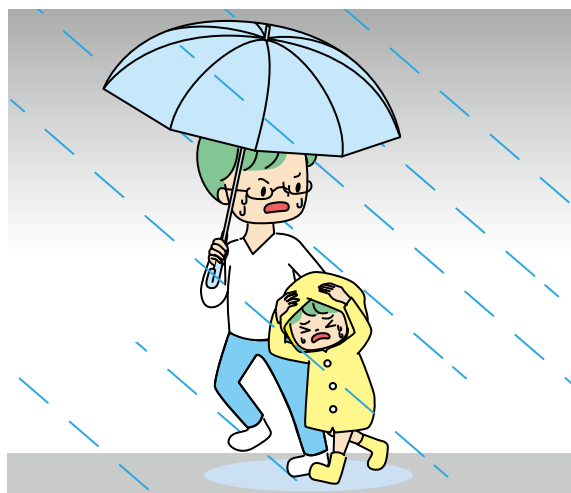
- 台風による大雨や高潮で避難が必要な場合は、風が強くなる前に避難しましょう(強風のときは移動が困難となります)。



マイ・タイムラインをつくろう。

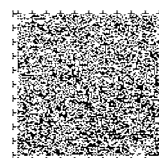
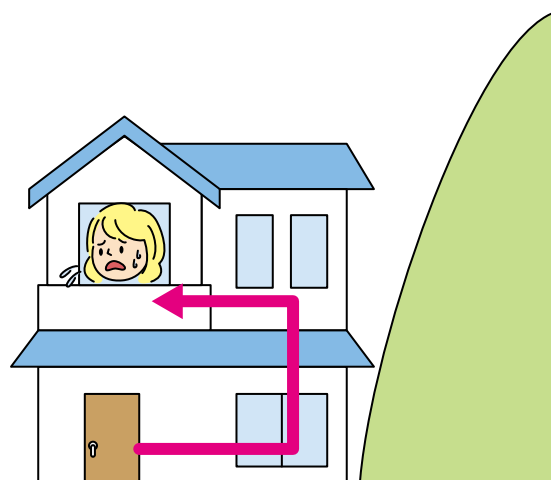
避難のポイントになること

- 大雨が降り続いた場合、山や谷、がけが崩れやすくなります。避難情報や「土砂災害警戒情報」の防災情報を聞いたら、早めに避難しましょう。



避難のポイントになること

- 急に強い雨が降りだすため、避難の準備のための時間はほとんどありません。
- 避難先までの移動が危険と思われる場合は、自宅2階以上の山の反対側の部屋や近くの頑丈な建物の上階へ避難(垂直避難)しましょう。



マイ・タイムラインをつくろう

●「ひろしまマイ・タイムライン」セットには、下記のものが入っています。

ケース



ガイドブック(本冊子)



マイ・タイムライン
をつくるためのガ
イドブックです。

マイ・タイムラインシート



台風、大雨、急激な豪雨の3種類が
入っています。

必要な情報



風水害に備えて、必要となる
情報を紹介しています。

シール



シールは貼り剥
がし可能なので
一度作成したマ
イ・タイムライ
ンは何度でも見
直すことができ
ます。

マイ・タイムラインを簡単に
つくるためのシールです。

マイ・タイムラインをつくるために必要な2つのポイント

①ハザードマップを確認する

自分の身に起こりやすい災害のリスクがわかると、どの情報を入手すれば良いか分かります。(P.28～29参照)



②避難情報や防災気象情報を確認する

気象情報や避難情報の意味や入手方法を確認しましょう。また、避難の準備や開始のタイミングを決める目安となります。(P.30～31参照)

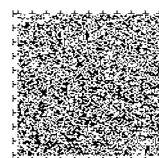
マイ・タイムラインの作成ポイントを掲載した動画もあります

- 減災ポータルサイト「広島県『みんなで減災』はじめの一步」に「ひろしまマイ・タイムライン」の専用ホームページを作成し、マイ・タイムラインの作成ポイントを掲載した動画も配信しています。



ひろしまマイ・タイムライン

検索



①ハザードマップを確認する

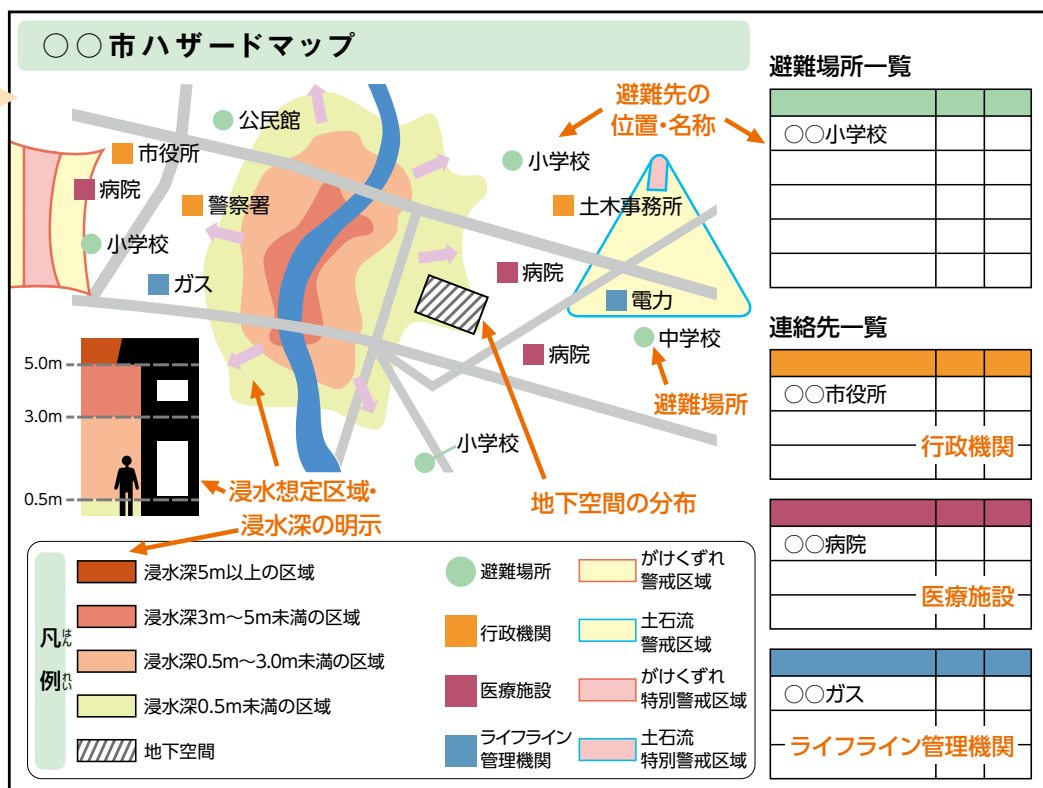
ハザードマップ※とは

※防災マップなどと呼ばれることもあります。
最新の情報で確認しましょう。

- 被害が想定されるエリアや避難する場所などを表示した地図のことで、市町ごとに作成されています。
- 土砂災害、洪水、高潮などによって被害が異なるので、ハザードマップは災害種別ごとに確認しましょう。
- 自宅にハザードマップがあるか確認してみましょう。自宅にない場合は、各市町の窓口またはホームページなどで入手できます。

マイ・タイムラインをつくらう。

エリアごとに浸水する深さが示されています。例えば、浸水する深さが3.0mのエリアであれば、1階相当が水没、5.0mであれば2階相当が水没することが示されています。



ハザードマップの入手方法

- お住まいの地域のハザードマップ検索

- 広島県のハザードマップ公表状況

- 国土交通省ハザードマップポータルサイト

〇〇市 ハザードマップ 検索





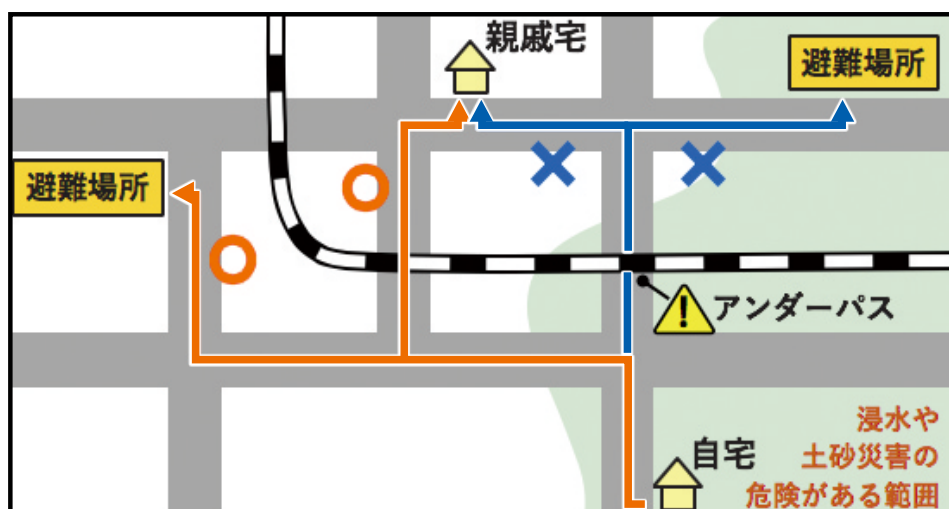
自分の住んでいる地域に起こりうる災害を確認する

- ハザードマップを見て、「①自宅が浸水や土砂災害のおそれがある」、「②自宅が浸水や土砂災害のおそれがあるエリアに近い」*場合は、マイ・タイムライン作成用『行動』シールの◎のシールを「必要な情報」のシートのチェック欄に貼りましょう。

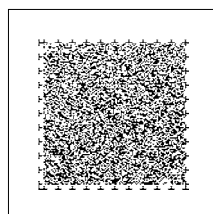
※ハザードマップはあくまでも想定なので②の場合もチェック欄に◎のシールを貼りましょう。

- 「③自宅が被災の可能性のあるエリアから離れている場合」でも避難場所や避難経路などに被災が想定されるエリアがある場合は、チェック欄に○のシールを貼って、お住まいの市町の情報に注意しましょう。

- ◎の場合は、あてはまる災害に関する情報は必ず確認し、○の場合は、状況に応じて確認しましょう。
(P.31 参照)



マイ・タイムラインをつくろう。



②避難情報や防災気象情報を確認する

風水害から身を守るためには気象情報に注意

- 台風、大雨などに関する警報や注意報などは、気象庁から発表されます。

【気象特別警報・警報・注意報】

発生のおそれがある気象災害の重大さや可能性に応じて特別警報・警報・注意報が発表されます。

種類	気象状況	内容
特別警報	大雨(土砂災害、浸水害)、暴風など	重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合に発表
警報	大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風、高潮など	重大な災害の起こるおそれがある場合に発表
注意報	大雨、洪水、強風、高潮など	災害の起こるおそれがある場合に発表

【指定河川洪水予報】 ※気象庁と河川管理者(国や県)が共同で発表。

あらかじめ指定された河川の区間について水位または流量を示して発表される警報や注意報です。

洪水予報の標題(種類)	求める行動の段階
〇〇川氾濫発生情報(洪水警報)	氾濫水への警戒を求める段階
〇〇川氾濫危険情報(洪水警報)	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難などの氾濫発生に対する対応を求める段階
〇〇川氾濫警戒情報(洪水警報)	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階
〇〇川氾濫注意情報(洪水注意報)	氾濫発生に対する注意を求める段階

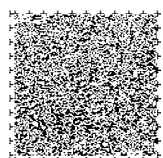
※県内で指定されている河川(洪水予報河川)。

江の川上流、神野瀬川、馬洗川、西城川、小瀬川、太田川上流、太田川下流、三篠川、根谷川、芦田川、高屋川、沼田川水系沼田川、黒瀬川水系黒瀬川。

※その他の河川については、「洪水ポータルひろしま」や気象庁のホームページ(洪水警報の危険度分布)で確認しましょう。

【土砂災害警戒情報】 ※気象庁と都道府県が共同で発表。

大雨警報(土砂災害)の発表後、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、対象となる市町を特定して警戒を呼びかける情報です。



※土砂災害警戒情報は、「土砂災害ポータルひろしま」や気象庁のホームページ(土砂災害警戒情報)などから確認しましょう。

※これらの情報の詳細は気象庁のホームページを確認してみましょう。

市町からの避難情報にも注意

- 避難に関する情報は、市町から発令されます。
- 水害・土砂災害について、市町が出す避難情報と国や都道府県が出す防災気象情報を、直感的にわかるように5段階に整理しています。
- 必ずしもこの順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

名 称：警戒レベル 発信者：市町など 内 容：避難情報

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報など
5	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保
4	危険な場所から全員避難	避難指示
3	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難
2	自らの避難行動を確認	大雨注意報・洪水注意報・高潮注意報
1	災害への心構えを高める	早期注意情報

名 称：警戒レベル相当情報 発信者：気象庁や県など 内 容：土砂災害の情報や河川水位など
--

防災気象情報(警戒レベル相当情報)		
	浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報(土砂災害)
4相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2相当	氾濫注意情報	—
1相当	—	—

※上表は、主なものを示しています。その他の情報については、気象庁ホームページなどを参照してください。

情報の入手方法

気象庁 警戒レベル 🔍 検索

- 情報の入手方法をおさえておくことも重要であり、ハザードマップで確認した、地域で起こりうる災害に該当する情報について、「必要な情報」シートにチェックをして、入手方法を確認してみましょう。

※シートに書いてある方法以外でも入手できます。自分や家族に合った方法を決めておきましょう。



テレビ・ラジオ



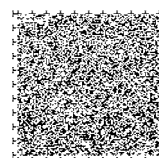
市町のホームページ
広島県防災Web



自治体のメール配信サービス
緊急速報メール・民間防災アプリ



※情報の伝達方法は、防災無線、テレビなどさまざまで、各市町で違いがありますので、ご注意ください。



つくり方を確認する

次の**1**～**5**の手順でシールを貼って、マイ・タイムラインを完成させましょう。

- 1** 避難先を記入する。
- 2** 避難情報や気象情報から避難のタイミングを考える。
- 3** 避難開始・避難完了のシールを貼る。
- 4** 避難開始までの行動を考えてシールを貼る。
- 5** 地域に対しての行動を考えてシールを貼る。



「行動」シールの使用方法

- マイ・タイムラインシートの行動欄に貼るシールには、「避難開始」、「避難完了」、「全ての避難準備にかかる時間」が書かれたシールと「空白シール」があります。
- 「空白シール」は、自分で必要と思うことを自由に書き込んで使用します。

「入手情報チェック」シールの使用方法

- ◎のシールは自宅が災害の想定区域内にあるときに、○のシールは避難場所や避難経路などに被災が想定されるエリアがあるときに、必要な情報の該当する災害のチェック欄に貼りつけるものです。
(P.29参照)



1 避難先を記入する

 シートに書いてみよう!

- ハザードマップなどを確認しながら避難する場所を決めて、マイ・タイムラインシートに記入しましょう。

※災害の種類によって、避難する場所が変わることがあることにも注意しましょう。



平成30年7月豪雨災害に関する
県民の避難行動の調査結果からわ
かった大切なことです。

マイ・タイムラインをつくろう。

ここに避難先を記入します。

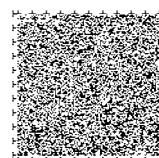
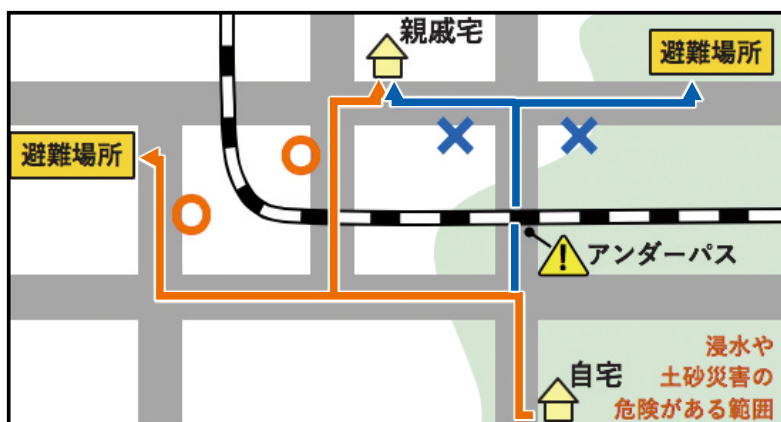
- 避難先は、市町が決めている「指定緊急避難場所」に避難することだけではなく、安全な親戚や知人の家などに避難するのも有効です。
 - 「指定緊急避難場所」にこだわらない、避難先（商業施設やホテル、親戚の家など）を複数確保しましょう。
 - 避難場所での滞在がイメージできるよう避難場所の設備や環境を確認しておきましょう。
- ハザードマップなどを見て、被害のおそれがある場所や低い場所などを避けて、できるだけ安全に移動できる避難ルートを決めましょう。
 - できるだけ複数の避難ルートを決めておきましょう。

※指定緊急避難場所

災害種別ごと（洪水・がけ崩れ、土石流及び地すべり・高潮・地震・津波・大規模な火事など）に切迫した災害の危険から逃れるための施設または場所。

※指定緊急避難場所は、ハザードマップや市町のホームページなどから確認することができます。

その他に広島県の減災ポータルサイト「広島県『みんなで減災』はじめの一步」の避難所・避難場所検索からも確認することができます。



2 避難情報や気象情報から避難のタイミングを考える

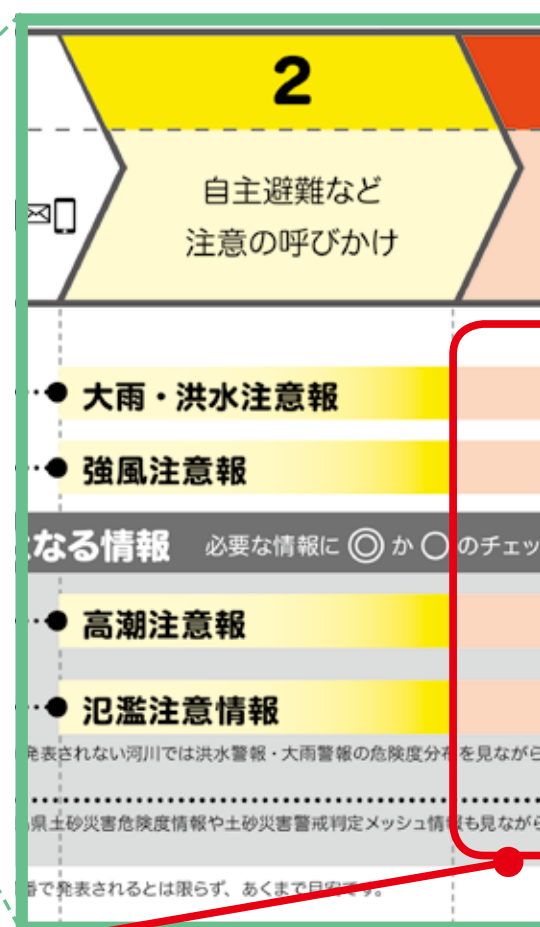
避難情報

- 最も重要な情報は、市町が発令する避難情報です。
- 赤い線で囲まれた気象情報が発表された場合、市町から、状況に合わせて避難情報が発令されます。
※たとえば避難情報が発令されていなくても、同じ赤い線で囲まれた気象情報が出たら、避難を検討してください。
- 避難情報や気象情報をもとに、避難の準備や開始のタイミングを考えてみましょう。

マイ・タイムラインをつくらう。



※避難情報は必ずしもこの順番で
発令されるとは限りません。



●高齢者等避難

避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児など)と
その支援者は避難を始めましょう。

「避難行動判定フロー」で、自宅に留まり、安全確保をすることが可能な人も、避難行動について考えてみましょう。



避難先や避難のタイミングについては、「避難行動判定フロー」(40ページ)を参考にしてください。

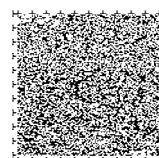
●避難指示

遅くともこの時には、全員避難！



●緊急安全確保

すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。
自宅内や近隣の建物の、少しでも危険が少ない場所
(2階以上の山の反対側の部屋など)へ移動してください。



3 避難開始・避難完了のシールを貼る



シートに書いてみよう!

- **2** で考えた避難開始のタイミングについて、「避難開始」のシールを貼りましょう。

また、避難する人も「避難開始」のシールに記入しましょう。

※高齢者など早めの避難が必要な家族がいる場合は、早いタイミングで、「避難開始」のシールを貼りましょう。

※ **1** で記入した避難先ごとに、上下それぞれシールを貼りましょう。

例えば、おじいちゃんと一緒に避難する場合は、「私・おじいちゃん」と記入して、「高齢者等避難」の下に避難先ごとに、貼りましょう。

- それぞれの避難先に安全に移動・到着するまでに必要な時間を踏まえて、「避難完了」のシールに避難する人を記入して貼りましょう。

4 避難開始までの行動を考えてシールを貼る



シートに書いてみよう!

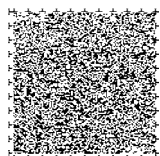
- **3** でシールを貼った「避難開始」までに、何をすべきかを考えましょう。

例えば、「避難する親せき宅へ連絡する」や「常用薬を用意する」など準備の内容とそれに必要な時間を「空白シール」に記入して貼りましょう。

※誰が準備するかなども考え、記入しておきましょう。

- 避難準備時間を、「全ての避難準備にかかる時間」のシールに記入して貼りましょう。

例えば「空白シール」に「お母さんが常備薬を用意する」と書いて貼りましょう。





シートに書いてみよう!

- 災害が起こりそうな時に、地域での役割がある場合は、地域の人などに呼びかけをしましょう。
- 地域の人などに呼びかけるタイミングを「空白シール」に記入して貼りましょう。

例えば「空白シール」に「お母さんが近所のおばあちゃんに避難の呼びかけ」と書いて、貼りましょう。



平成30年7月豪雨災害に関する
県民の避難行動の調査結果からわ
かった大切なことです。



マイ・タイムラインをつくらう。

- 家族や親戚、顔見知りの方からの避難の呼びかけは、避難を促進することがわかっています。一人だけでは避難が不安な場合や自分は大丈夫と感じている場合でも、避難を呼びかけあうことにより、避難行動に結びつきやすくなります。
- 一人では避難が難しい方や、高齢者など避難に時間がかかる方もいます。日頃から、地域の人と、呼びかけるタイミングや呼びかける方法、呼びかける順番などを話し合い、呼びかける体制などをつくっておきましょう。

避難の呼びかけの重要性

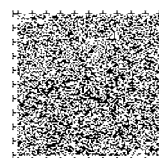
広島県では、平成30年7月豪雨災害において、避難行動をとった人が少なかったことから、避難行動の調査を行いました。この調査・分析結果において、周りの人から避難の呼びかけがあることが、早い段階での避難に繋がることがわかりました。避難した人からも、

「近所の方から、避難を呼びかけられたから」

「友人から、避難を呼びかけられたから」

と、避難を決めるきっかけになったとの証言が多くありました。

一人だけでは避難が不安な場合や、自分は大丈夫と思っている場合でも、避難を呼びかけ合うことが、避難行動に繋がります。地域で声をかけ合って、早めの避難に繋がしましょう。



避難への備えや家族との連絡方法を考える

- 避難する前に、必要なものを考えてみましょう。
- 避難する際に持っていく非常持出品は、避難時にすぐ持ち出せるようにリュックのような両手が使えて持ちやすいバッグに詰め、寝る場所の近くや玄関先に置いておきましょう。
- 非常時に一人が持ち出せる量は限られています。飲食物、救急用品、貴重品など、最初の1日をしのぐために必要なものを用意しましょう。
- 家族構成を考えて必要なもの、数を用意することも大切です。
- いざという時のために、どういう方法で家族と連絡をとるか、家族と話し合っておきましょう。
- 避難の必要がない人も、水道や電気などのライフラインの寸断に備えて、必要なものを備蓄しておきましょう。
- 避難先での感染症予防として、マスクやアルコール消毒液、体温計などを用意しておきましょう。

マイ・タイムラインをつくらう。

【災害用伝言ダイヤル(電話サービス)】

災害用伝言ダイヤルは、災害の発生により被災地への通話が増え、電話がつながりにくくなった場合に提供されるサービスです。



【災害用伝言板(web171)】

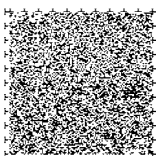
被災地の方々の安否情報を、インターネットを利用して確認できるサービスです。

被災地域内と他の地域を結ぶ声の伝言板。
「災害用伝言ダイヤル171」

利用ガイダンスにしたがってご利用ください。

伝言の録音方法	伝言の再生方法
1 171 にダイヤルする ▼ガイダンスが流れます	1 171 にダイヤルする ▼ガイダンスが流れます
2 録音する場合は 1 暗証番号を利用する 録音は「3」 ▼ガイダンスが流れます	2 再生する場合は 2 暗証番号を利用する 再生は「4」 ▼ガイダンスが流れます
3 () に被災地の電話番号*、携帯電話・PHS・IP電話の電話番号をダイヤルしてください。 * 市外局番からダイヤルしてください。	3 () に被災地の電話番号*、携帯電話・PHS・IP電話の電話番号をダイヤルしてください。 * 市外局番からダイヤルしてください。

※伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。聞かれないメッセージを録音する場合は、あらかじめ暗証番号を決めておく必要があります。



<https://www.web171.jp>

web171

検索



非常時持ち出しグッズ一覧

※グッズをまとめる非常袋には両手が使えるリュックサックを利用しましょう。

必ず必要なもの

- ☐現金 ☐預金通帳・印鑑 ☐保険証・免許証 ☐権利証

あると便利なもの

- ☐缶切り・ナイフ ☐雨具 ☐軍手 ☐カイロ ☐ロープ
☐新聞紙 ☐ポリ袋・レジャーシート ☐ガムテープ・油性ペン

避難生活のために

- ☐飲料水 ☐食料 ☐下着・衣類 ☐靴 ☐寝ぶくろ
☐ティッシュ・タオル類 ☐カセットコンロ・ボンベ ☐マッチ・ロウソク

安全・安心・情報収集のために

- ☐救急セット・常備薬 ☐懐中電灯 ☐電池の予備 ☐防災ずきん
☐手回しラジオ ☐モバイルバッテリー・充電器

健康管理のために

- ☐常備薬 ☐マスク ☐消毒液 ☐救急セット
 (体温計、ガーゼ、絆創膏、包帯など)



家族構成を考えて必要なもの・数を用意する事も大切です。



小さな子供

- ☐母子健康手帳
☐おむつ・おしりふき
☐ミルク・哺乳瓶
☐おんぶひも など



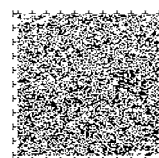
高齢者

- ☐折りたたみの杖
☐常備薬・紙おむつ
☐老眼鏡・お薬手帳
☐折りたたみ椅子 など



ペット

- ☐迷子札・ペット手帳
☐ペットフード
☐常備薬・リード
☐ペットの写真 など



避難行動判定フローを確認する

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に
「避難行動判定フロー」を確認しましょう

避難行動判定フロー

●あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップ※
で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

必ず取り組みましょう

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどに住んでいる場合は、市町村からの避難情報を参考に必要な時は、避難してください。

家がある場所に色が塗られていますか？

はい

災害の危険があるので、自宅ではなく安全な場所への避難が必要※です。

はい

例外

※浸水の危険があっても、

- ①洪水により家屋が倒れたり、崩れたりしてしまうおそれがない区域である
- ②浸水する深さよりも高いところにいる
- ③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅に残り安全確保することも可能です。

※土砂災害の危険があっても、十分頑丈なマンションなどの上の階に住んでいる場合は自宅に残り安全確保することも可能です。

解説はP.42・43をご覧ください

平時に確認

- 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

自分または一緒に避難する方は
避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいてお世話
になることができる親せきや知り
合いの人はいますか？

安全な場所に住んでいてお世話
になることができる親せきや知り
合いの人はいますか？

はい

いいえ

はい

いいえ

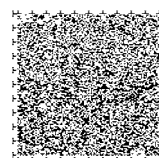
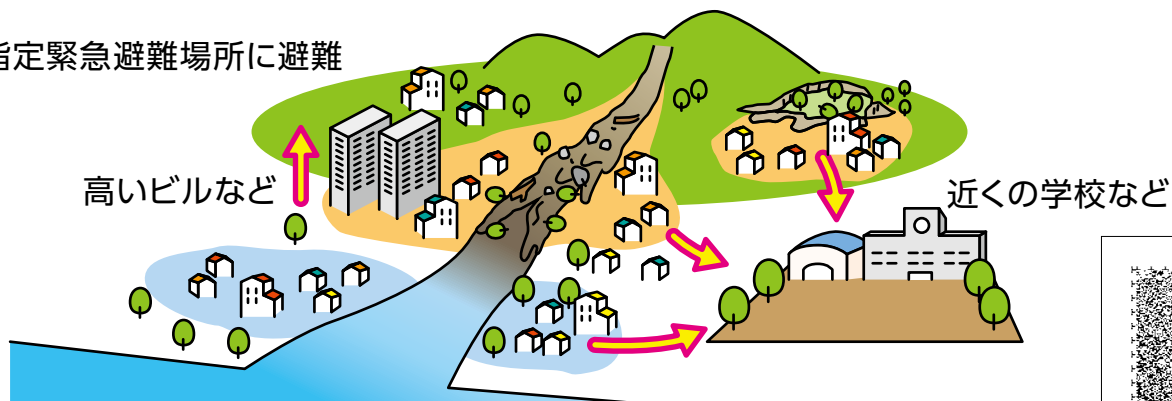
警戒レベル**3**が
出たら、安全な
親せきや知り
合いの家に避
難しましょう(日
頃から相談して
おきましょう)。

警戒レベル**3**
が出たら、市
町が指定して
いる指定緊急
避難場所に避
難しましょう。

警戒レベル**4**が
出たら、安全な
親せきや知り
合いの家に避
難しましょう(日
頃から相談して
おきましょう)。

警戒レベル**4**
が出たら、市
町が指定して
いる指定緊急
避難場所に避
難しましょう。

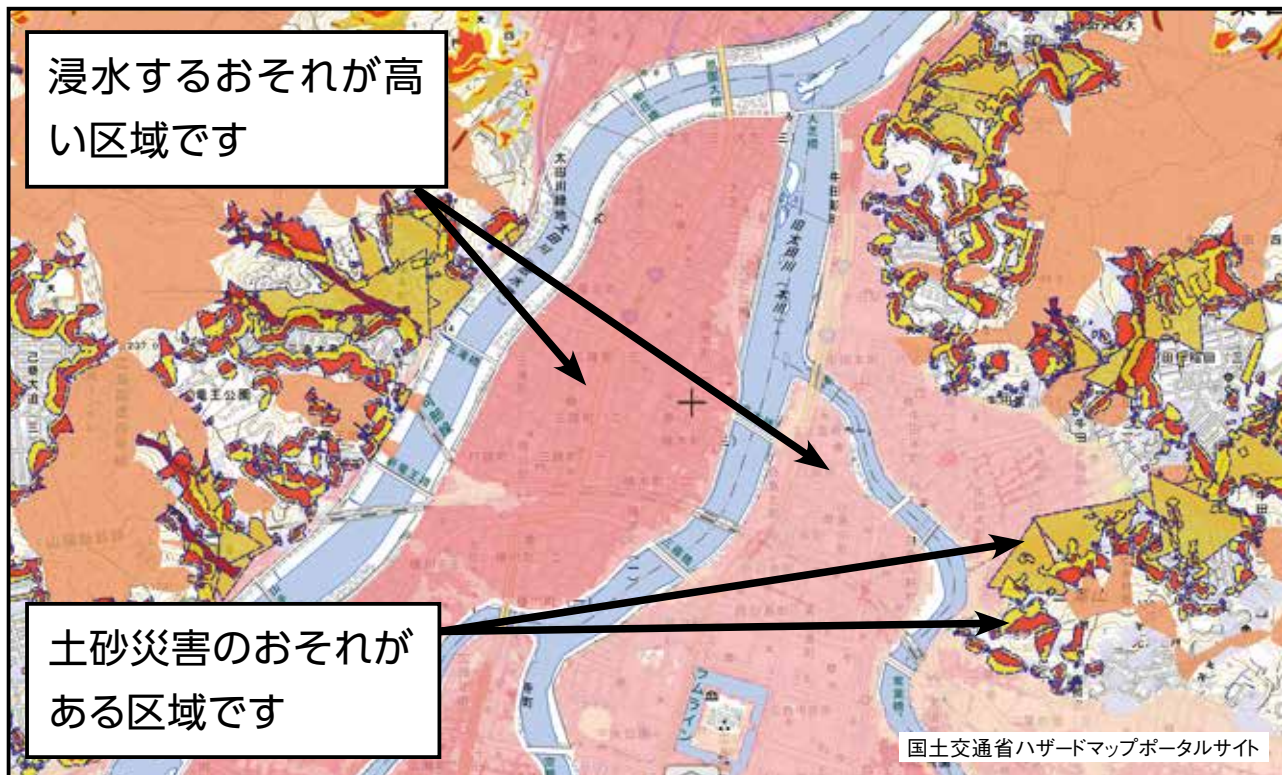
指定緊急避難場所に避難



避難行動判定フローを確認する

避難行動判定フローの参考情報

■ハザードマップの見方〈必ず確認してください〉



凡例

〈水害〉

洪水浸水想定
区域
(浸水深)

3・4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	5m~10m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

〈土砂災害〉

土砂災害警戒区域:

土砂災害のおそれがある区域

土砂災害特別警戒区域:

建造物に損壊が生じ、住民などの生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

ハザードマップの入手方法

○各市町の窓口

またはホームページなどで入手

〇〇市 ハザードマップ 検索

○国土交通省ハザード
マップポータルサイト

ハザードマップポータルサイト 検索



○広島県のハザード
マップ公表状況
※各市町のハザード
マップのリンク集



※ハザードマップの着色や凡例は市町によって異なる場合があります。

■ハザードマップの見方〈もっと詳しく知りたい人向け〉

・次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

①家屋倒壊等氾濫想定区域には入っていない



流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります。



地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります。

②浸水深より居室は高い

3・4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	5m~10m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③水・食糧などの備えが十分であり、水がひくまでの生活ができる



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や、③浸水継続時間はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町や河川管理者へお問い合わせください。なお、重なるハザードマップには記載がありません。

■警戒レベル3や4が出たら、危険な場所から避難しましょう

■「避難」とは「難」を「避」けることです

安全な場所にいる人は、避難する必要はありません

■避難先は市町が決めている「指定緊急避難場所」だけではありません

安全な親せき・知人の家などに避難することも考えてみましょう

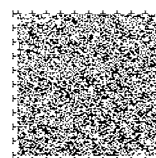
※緊急時に身を寄せる避難先は、市町が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親せき・知人の家など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

※「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校、公民館など)

※自宅が被災し、帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」や安全な親せき・知人の家に行きましょう。

※わからないことがありましたらお住いの市町にお問い合わせください。

(参考)内閣府防災ホームページ「令和元年台風第19号等による避難に関するワーキンググループ」
(<http://www.bousai.go.jp/fusuigai/typhoonworking/index.html>)



マイ・タイムラインの使用時の注意点

- 台風や大雨は自然現象であり、マイ・タイムラインがあれば常に安全ということではなく、マイ・タイムラインで想定したとおりに進行するとは限りません。マイ・タイムラインを作成すると、自分と家族がとるべき防災行動の「タイミング」が明確になりますが、注意点もあります。
- マイ・タイムライン上の時間は、時計のように進むわけではありません。例えば、タイムライン上で氾濫発生が3時間前となっても、雨の降りが予想と異なることで、結果として氾濫が予想よりも早まることも氾濫しないこともあります。そのため、実際、マイ・タイムラインを使用する際には、次のことをふまえて行動してください。

1 あくまで行動の目安として認識する。

2 気象警報や避難情報などをこまめに収集・確認する。

3 収集・確認した情報をもとに、マイ・タイムラインを参考にして、臨機応変に防災行動の実行を判断する。



こういったケースも

台風が近づいています。

まだ、雨は小雨程度です。気象情報をこまめに確認していたら、台風の直撃が真夜中になりそうで、大雨になる見込みです。



○小さい子供もいるので、真夜中に避難するのは危険がある。

○マイ・タイムラインには避難情報がでてから避難することに決めている。

家族で話し合ってみて・・・

まだ避難情報は出ていないけど、暗くならないうちに、安全な知人の家に避難した。

危ないと思ったら、雨が降っていなくても、**できるだけ明るいうちに**安全な場所へ**避難**しましょう。

平成30年7月豪雨災害を体験した住民たちの証言から考える

広島県では、平成30年7月豪雨における避難行動について、県民のみなさまから極めて多様で貴重な証言をいただいたことから、それらの証言をもとに行動事例集「私たちはなぜうまく避難できないのだろう」を作成し、減災ポータルサイト「広島県『みんなで減災』はじめの一步」に掲載しています。家族で一度読んでみましょう。

